

勉学の道

ちょっとイイ話

ビジネススクールで続ける2人



左から豊島さん、金子さん



2人とも中央大学法学部(通信教育部)を卒業した。顔を見合わせて、苦労話をした。「働いて、勉強して、大変でした。卒業したときは充実感がありました」(豊島さん)「やりきったという感じね」(金子さん)。

勉強する意気込みがもともと違っているようだ。見聞が広がって、勉学が楽しいといった「喜び」が上回るのだろう。

二宮金次郎は山へ薪取りに行く往復の道で本を読んだという。蛍の光を集め、雪明かりに頼って読書した時代ではない。今の時代は明るく楽しく、平日の夜に机を並べる。向学心に応える教室がある。

苦学という言葉があるなら、“楽学”があってもいい。

東京ドーム近くにある中央大学大学院戦略経営研究科(ビジネススクール)に学ぶ金子房代さんと豊島文子さんは、会社の上司と部下である。一日の仕事が終わるとビジネススクールのある中大後楽園キャンパスにやってくる。

サラリーマンの仕事帰りは居酒屋か夏はビアホールで、一日の疲れを癒すのが一般的だ。

朝は満員電車で揺られ、ランチタイムは知らない人と相席にされる、夜くらいは羽をのばしたい。浅学非才の身には、これ以外のシーンが浮かばない。

金子さん、豊島さんが通うビジネススクールは平日夜間のほか、土曜か日曜に開講される授業に出席する。

期間は2年間。在籍する戦略経営研究科は、企業の発展に寄与できる戦略経営リーダーを育成するところであり、高いレベルの経営者を目指す人が多いという。

「経営法務」「ファイナンス」「マー

ケティング」など5つの分野を総合的に学ぶ。

勤務先に夜間の大学院進学を伝えると、大歓迎されたという。「勉学よし、志よしとってくれました」(金子さん)。幸いにも残業がない職場だった。とはいえ、午前も午後も懸命に働く。夕刻までにはその日の仕事をきちんと終わらせ、気分も新たに夜、大学院生となるのは大変なことだ。

「遊ぶのと同じでして、やりたいことを今やっています」と金子さん。豊島さんは「働きながら勉強する環境とタイミングがあったもので」とさりりと話した。

金子さんは「勉強していると経営者を理解できる」と勉学の利点を口にした。よくサラリーマンが「社長は何をを考えているのかね」というグチは、遠い世界のようなのだ。

